

ピースボート災害ボランティアセンター (PBV)

ネパール地震 緊急支援 活動報告書

実施期間 2015年4月30日 ~ 2015年10月26日

主な活動場所 ネパール連邦民主共和国 カトマンズ、シンドウパルチョク郡 他

[オフィシャルサイト] <http://pbv.or.jp/>

[英語サイト/English site] <http://pbv.or.jp/en/>

二度にわたって襲った巨大地震。 国内における災害救援、ボランティア育成のノウハウを活用

現地時間 2015 年 4 月 25 日にネパールの首都カトマンズの北西 77km 付近、ガンダキ県ゴルカ郡サウラバニの深さ 15km を震源として発生した地震は、死者 8,891 名、避難者数 58,000 名を超える被害をもたらしました。

ピースボート災害ボランティアセンター(以下、PBV)では、この地震発生を受け 5 月 2 日にスタッフ 2 名を現地に派遣し支援活動に乗り出しました。現地では多くの若者がボランティアに志願していたことから彼らと共に活動する現地 NGO スタッフを対象に PBV が東日本大震災以降国内において実施してきた「災害ボランティアトレーニング」をアレンジしたプログラムを実施しました。

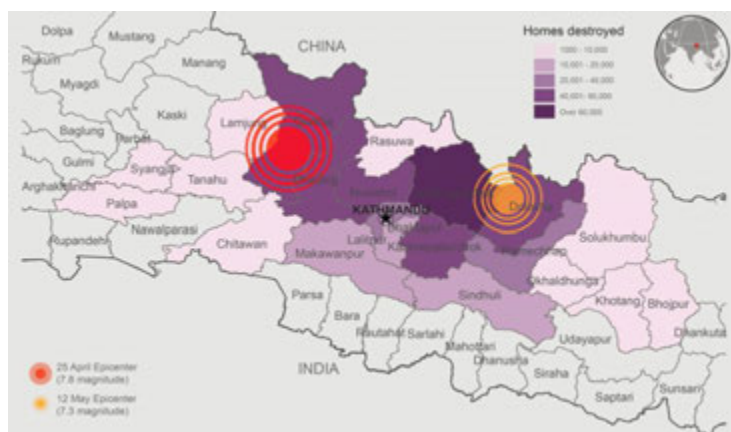
その後、現地パートナー団体と共にカトマンズから車で 3 時間程度の距離にあるシンドウパルチョク郡の 3 つの VDC(Village Development Area)において倒壊した校舎の代わりとなる仮設校舎の建設及びその付帯設備としてトイレ、水道の整備プロジェクトを行った他、学習再開を支援するため文具・遊具をセットにしたキットの配布プロジェクトを実施しました。



被害状況

4 月 25 日に発生した地震により大きな被害を受けましたが、その後、5 月 12 日にカトマンズの北東 76km 付近、バクマティ県シンドウパルチョク郡コダリで発生した巨大な余震により更なる被害をもたらしました。この余震は、本震をなんとか持ちこたえた学校や家屋にも影響を与えました。

また、ネパールは元来地震が多い地域ではあるものの、建物の多くはレンガ積みの耐震性の低い脆弱な構造のものが多く、また山岳地帯では地すべりも発生しやすい環境のため、被害が拡大したものと考えられます。一連の地震からの復旧・復興には相当の時間を要するものと思われれます。



被害の概要

死者数	8,891 人
全壊家屋数	605,254 棟
半壊家屋数	288,255 棟
避難者数	58,689 人

引用：OCHA9 月 1 日付レポート

プロジェクトの概要・実績

第一次 初動調査・緊急支援 (カトマンズ・ヌワコット郡・ラメチャップ郡)

日本における事前の情報収集を行った後、5月2日にネパールの首都カトマンズに向けて2名の職員が出発。到着後、平時から現地にて活動を行っている(特活)シャプラニール＝市民による海外協力の会の多大なる協力のもと、被害状況をはじめ緊急支援の実施状況について調査を行いました。また、国連 WFP(国際連合世界食糧計画)が実施しているフードクラスター会議に参加。その結果、カトマンズの北東に位置するバクマティ県ヌワコット郡が深刻な食糧不足状況にあることが判明したため、(特活)シャプラニール＝市民による海外協力の会と協力し、同郡内3つのVDCの115世帯に対し、下記の食糧配布を行いました。また、雨季を向かえるため最低限の住居の確保が優先課題であったため、ジャナクプル県ラメチャップ郡において500世帯分のシェルターを手配しました。



ヌワコット郡における食糧配布 (5人家族5日～10日分×115世帯)	
米	30 kg
レンズ豆	5 kg
チウラ	2 kg
大豆油	2ℓ
塩	1 kg
石鹸	2個

災害ボランティアコーディネーション研修 (カトマンズ)

支援活動を行うにあたりパートナーシップを結んだ現地のNGOであるCWIN(Child Workers in Nepal Concerned Centre)のカトマンズ事務所には、日々100名を超える地元の若者たちがボランティアに志願し、集まり始めていました。CWINでは平時の事業実施時にも多くのボランティアと協働していましたが、発災直後の緊急期においてボランティアと共に緊急支援を行うのは、はじめての経験でした。平時とは異なり余震などの二次被害発生が懸念される中、ボランティアと共に安全にかつ効率的に必要な支援を実現していくためには、ボランティアを受け入れる団体の職員にも平時とは異なり、“安全管理”や“危機管理”等のスキルやノウハウが求められます。

そこで、PBVが東日本大震災以降、全国各地で実施している「災害ボランティアトレーニング」を現地事情に合わせてアレンジした特別プログラムを実施。CWINの職員その他、現地NGO15団体から27名の職員が参加し、2日間に渡り緊急期におけるボランティアとの協働において考慮すべき事項等についてワークショップを取り入れながら研修を行いました。トレーニングの1日目には、ネパールの青年スポーツ省の大臣であるPurushottam Paudel氏も会場に駆けつけ、甚大な被害からの復旧・復興に地元の若者を活用しながら取り組んでいくことの必要性についてお話をされました。



ボランティアコーディネーション研修 カリキュラム(14時間分)

“災害”ボランティアについて	リスクマネジメント	セルフマネジメント
セルフケア	傷病対策	行動規範
ボランティアコーディネーション	ケーススタディ	アクションプラン作成

第二次 緊急支援

仮設校舎および付帯するトイレ・水道設備の設置 (シンドウパルチョコ郡)

国連が取りまとめを行う課題別クラスター会議やネパールの政府の見解として、子どもたちの学習再開が急務であるとされたことを受け、5月12日に発生した余震の震源地に近いバクマティ県シンドウパルチョコ郡において教育環境の整備事業を行うことになりました。まずは、現地パートナー団体であるCWINと共に現地に入り、被害状況を把握するためのアセスメント調査を実施。また、各郡に設置されているDEO(District Education Office)と調整を行い、郡内のバタセ、ジャルビリ、カダムバスという3つのVDCにおいて、仮設校舎の建設および校舎に付帯する設備としてトイレ・水道設備の設置支援を行いました。ネパールでは、学齢期にある子どもたちが長期間に渡り学校を離れてしまうことで児童労働や人身売買の危険性が高まってしまうという社会的背景もあり、迅速な校舎設置および学習の再開が必要でした。また、今回建設した仮設校舎は、本設の校舎が設置されるまでの2年程度使用することになるため、校舎やトイレ、水道のメンテナンスを行う必要があります。この作業を地域住民の手で続けてもらうために仮設校舎の建設を始めるにあたり、教職員をはじめ地域の代表者の方々に集まって頂き、建設～学習再開～メンテナンスに至る一連のプロセスにおいてどのような方法で行うのか、について話し合いを持つ場づくりを行いました。



学習環境整備支援プロジェクト	実績数
仮設校舎	21棟
トイレ	15基
水道	16基

第二次 緊急支援

学習支援キットの配布を通じた学習再開支援 (シンドゥパルチョコ郡)

それまで使用していた教材や学用品、文具や遊具なども壊滅的な被害を受けてしまったため、校舎のみが完成しても学校での学習を再開することはできません。そこで、仮設校舎が完成した後、スムーズに学習を再開するためのサポートとして、国際連合児童基金(UNICEF)の指針に則り鉛筆やノートその他、ホワイトボード用マーカーなどをセットにした「スクールキット」と縄跳びやフリスビーをはじめ、補助教材として活用できる絵本などをセットにした「レクリエーションキット」の配布を行いました。

また、この2種のキット配布に当たり、各種文具等のパッキング作業はCWINに集まった多くの災害ボランティアの手によって行われました。事業地であるシンドゥパルチョコ郡は、CWINの事務所があるカトマンズから片道3時間半の道のりです。災害ボランティアが仕分け作業を行っている間、私たちは事業地において発生する様々な調整事項に時間をあてることができました。災害ボランティアをコーディネートし、彼らの力を最大限活用することで、よりスムーズに効率的な支援が可能となりました。



スクールキット内容物と配布数		
色紙	のり	定規
ルーズリーフ	マスキングテープ	クレヨン
ノート	出席簿	絵本
はさみ	カッターナイフ	消しゴム付鉛筆
水彩絵の具	ボードマーカー	色鉛筆
カーボン用紙	鉛筆削り	ホワイトボードマーカー
合計 1セット×仮設校舎 23棟分		
レクリエーションキット内容物と配布数		
サッカーボール	空気入れ	縄跳び
ゴム輪	フリスビー	ゴムボール
ドミノパズル	高学年用パズル	チェスゲーム
教育用ボードゲーム	低学年用／高学年用絵本	
合計 2セット×仮設校舎 23棟分		

パートナー団体

被災地において地域の文化や風習、宗教などに配慮した上で、被災者となってしまった住民の方々が本当に必要としている支援を実施する上で欠かすことができないものの一つに現地の事情に精通した存在の必要性が挙げられます。特に今回の事業地となったネパールでは、言語の違いによるコミュニケーションの難しさもありました。

そこでPBVは、ネパールにおいて長年に渡り活動を行っているCWIN(Child Workers in Nepal Concerned Centre)とパートナーシップ提携を結び、事業を行いました。CWINは、1987年に設立されカトマンズに事務所を置く老舗のNGOであり、児童労働・人身売買等から子どもたちを守るための支援事業(チャイルドホットライン等)を行っており、地元の人たちとの信頼関係が厚いだけでなく、政府に対するアドボカシー活動も積極的に行っています。



の信頼関係が厚いだけでなく、政府に対するアドボカシー活動も積極的に行っています。

活動カレンダー

4月	25日	ネパール地震 発生
5月	2日	2名の先遣・緊急支援スタッフを派遣
	5日	バクマティ県ヌワコット郡において食糧配布
	11・12日	ジャナクプル県ラメチャップ郡においてシェルターキット配布
6月	5日	「仮設校舎および付帯するトイレ・水道設備の設置事業」および「学習再開支援キット配布事業」に関して、CWINとMoUを締結
	上旬	仮設校舎および付帯するトイレ・水道設備の設置開始
	12・13日	災害ボランティアコーディネーション研修を実施
	下旬	スクールキット・レクリエーションの配布を開始
7月～9月		雨季により遅延が発生、二次被害に注意しながら支援事業を継続
10月	上旬	仮設校舎、トイレ、水道の建設およびスクールキット・レクリエーションの配布を完了
	中旬	事業完了時モニタリング
	下旬	「仮設校舎および付帯するトイレ・水道設備の設置事業」および「学習再開支援キット配布事業」を完了

事業完了時モニタリング結果

支援事業を行う上で、実施したプログラムが受益者にとって有益なものになっているのか、について段階ごとに見直しや確認を行うことも重要です。10月上旬に仮設校舎、トイレ、水道の建設およびスクールキット・レクリエーションの配布が完了したことを受け、設置・配布後の使用状況や今後、他地域で事業を行うにあたり活かすべき課題を見つけるため事業完了時モニタリングを実施しました。モニタリングを行うにあたり、児童、教職員、日本のPTAにあたるSMC(School Management Committees)それぞれに対し専用のヒアリング用紙を作成し、聞き取り調査を行いました。支援実施により一定程度以上の効果があったことが認められた一方、課題も見えてきました。浮き彫りとなった課題を胸に刻み、今後の事業に活かしていく必要があります。



地震の後、2か月位学校に通うことができず、このまま勉強することができなくなるのではないかと不安に思っていたのですが、仮設校舎が完成したことで、また学校に通うことができるようになりました。学校に行くとレクリエーションキットで友達と遊ぶことができるので地震の時の恐怖を思い出さなくて済みます。

(Annada HSSに通う10年生の男子生徒)

仮設校舎がこの地域にできなければ、他の地域の学校に転校しなくてはいけない生徒もいた。もしそうになってしまえば、その生徒は毎日1時間以上歩いて学校に通わなくてはならなくなり、それが続けばドロップアウトに繋がっていたと思います。

(Bhimieshwori PSの校長)

子どもが毎日学校に通うのをとても楽しみにしています。嬉しそうに家を出ていくわが子を見送ることができるのは、私にとっても喜びです。

(Panch Kanya PSのSMCメンバー)

元々校舎のあった場所は、地震後、土砂崩れの危険性が高くなってしまったため、別の場所に仮設校舎を建てざるを得ませんでした。仮設校舎には、鍵をかけられるスペースや職員の執務スペースがないため、配布されたスクールキットやレクリエーションキットの保管場所の確保が難しい状況です。仕方なく、仮設校舎のお隣に住んでいる住民の方に頼んで預かってもらっています。そのため、子どもたちが自由に遊具を使えないこともあり、少し残念です。

(Seti Devi PSの教員)

配布されたスクールキット・レクリエーションキットは、小学生向けの内容で構成されていて、中学生がいる本校にとっては、足りない教材もありました。特に科学の授業を行うために必要となる教材が足りていません。

(Ananda HSSの校長)

ご協力いただいた企業・団体 (五十音順/アルファベット順)

ネパールにおける各種災害救援プロジェクトは、多くの企業・団体からの資金提供および物品提供等の協力によって実現することができました。また、街頭募金やインターネットをはじめ、募金箱の設置等、多くの個人の方々からの応援を頂きました。個人情報観点から、個人の方々のご紹介は控えさせていただきますが、協力いただいたすべての皆様に対し、この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

act alliance / Child Workers in Nepal Concerned Centre / CWS JAPAN / IsraAID / LUSH / PEACE BOAT US / Yahoo! 募金 / えんや / かめ七呉服店 / きたかみ春祭 / 小鳥の森ゴルフパーク / 潮騒祭 / シャプラニール = 市民による海外協力の会 / 真如苑 / ジャパン・プラットフォーム / テサテープ / パルシステム生活協同組合連合会 / 福岡被災地前進支援 / 復興大学



収支報告

(円)			(円)		
収入	助成金	6,706,496 円	支出	先遣調査費用	382,000 円
	個人寄付	2,153,739 円		シェルター、食糧配布費	2,560,358 円
	団体寄付	12,097,563 円		ボランティアコーディネーション研修費	1,215,166 円
	為替差額	114,173 円		仮設校舎、トイレ、水道設置事業費	6,911,595 円
	合計	21,071,971 円		学習再開支援キット配布事業費	2,504,321 円
				渡航費、交通費、宿泊費	2,059,297 円
		雑費、その他		138,430 円	
		管理費		3,150,000 円	
		合計	18,921,167 円		

- 第一次初動調査時の一部費用、第二次緊急支援時の学習支援キットの配布を通じた学習再開支援の費用は、特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォームからの助成金によって実施いたしました。
- 第一次緊急支援時における災害ボランティアコーディネーション研修は、特定非営利活動法人 CWS JAPAN からの助成金によって実施いたしました。
- 第二次緊急支援時の仮設校舎および付帯するトイレ・水道設備の設置は、株式会社ラッシュジャパン、パルシステム生活協同組合連合会、国際 NGO ピースボート US、真如苑、テサテープ株式会社、等からの寄付金によって実施いたしました。
- 残金約 200 万円については、これまでに建設した仮設校舎における幼児教育課程にある子どもたちの学習環境改善事業に活用いたします。

活動を振り返って

4月25日に発生した地震、また度重なる大きな余震は、ネパール全土に甚大な被害をもたらしました。それを受け、PBVではこれまで活動実績のないネパールにおいて、海外では過去最大規模の災害支援を展開することとなりました。私はネパールも初めてで、緊急災害支援員として派遣されることも初めてでした。言語も文化も異なる国で実施される今回の支援には、現地のパートナー団体との協働が不可欠でしたが、幸運にも志を同じくする団体との出会いにより、一番被害が大きかった地域にて教育分野の支援活動を無事遂行することができました。活動地域の学校や子どもたちと接しながら、彼らに必要なと感じたのは、少しでも早く元の生活、つまり日常に戻すこと。「学校の再建は、家も家財も全て失った我々に大きな力と希望をくれた」と話してくれた校長先生の言葉が胸に響きました。子どもたちが元気であることが、大人、そして地域の元気の源となり得るのです。日本のみなさんからいただいたご支援のおかげで、被災地の子どもたちに学ぶ環境を届けることができました。心から感謝いたします。



ネパール現地支援員 羽田道子

「サポート会員」になって、 PBV の運営を支えてください。

東日本大震災への被災者支援・復興支援をはじめ、国内外の自然災害における救援活動の初動資金、災害ボランティアの人材育成プログラムの実施には、PBV の運営に対する継続的な支援が必要です。皆様からの会費は、PBV の運営を財政的に支える基盤になります。

●サポート会員（1年間）

個人 一口 5,000 円

団体 一口 100,000 円

※二口以上のご協力も可能です。

●会員特典

- ・季刊誌「START」と年次報告書をお送りします。
- ・各種講演会・イベントを優先してご案内いたします。
- ・会員同士の集いの場にご参加いただけます。

●ご協力方法の詳細は

<http://pbv.or.jp/support-member.html>

「ピースボート災害ボランティアセンター（PBV）」

PBV は、東日本大震災への継続的かつ大規模な支援活動を展開するため、2011年4月に、国際NGO「ピースボート」が設立した一般社団法人です。ピースボートが1983年より行ってきた国際交流の船旅、そして1995年の阪神・淡路大震災以降の国内外の災害支援のノウハウとネットワークを活かし活動しています。現在は、宮城県石巻市での復旧・復興支援を中心に、ボランティア・リーダーの育成などにも積極的に取り組んでいます。

ホームページ <http://pbv.or.jp>

ネパール地震 緊急支援 活動報告書

発行：一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター

編集：山本隆、奥村早苗、羽田道子

発行日：2016年3月18日

写真：ピースボート災害ボランティアセンター

この刊行物に関するお問い合わせは下記までお願いします。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-13-1-2F-A

TEL: 03-3363-7967 FAX: 03-3362-6073

E-MAIL: kyuen@pbv.or.jp

URL: <http://pbv.or.jp/>